

平成 30 年 2 月吉日

福井県病院薬剤師会
会長
高嶋 考次郎 様

第 3 回薬薬連携セミナー開催のご案内

平素は大変お世話になっております。

立春、雨水と暦は春が近いことを知らせてくれており、待ち遠しい限りでございます。
他でもございませんが、別添のとおり、第 3 回薬薬連携セミナーを開催されることになり、
当法人として例年通り後援させていただくことになりました。演者 新井克明先生には
地域の薬局と連携し、業務を進めてこられております。東北関東大震災、地域における医
療格差を通じて、ますますの薬薬連携の強化の必要性を肌で感じられ、薬局薬剤師に対し
て 1 日体験から可能な大洗塾（資料添付）の開講など、相互の業務の理解を進めるべく、
積極的に交流されています。今回は行政も含めた視点に立ち、薬剤師の在り方をお話いた
だく予定にしております。研修会が立て込んでいます時期かと存じますが、会員宛てご案内
いただければ幸いです。

特定非営利活動法人 健康環境教育の会
宮本 悦子

920-0935 金沢市石引 1-8-18 村本ハイツ 2F202

電話&FAX076-265-4031

e-mail : emiyamo0051@gmail.com

追伸 先にご案内しました簡易懸濁法実技セミナーにつきまして、募集期間を延長いたし
ましたので同封させていただきます。可能でしたら、会員宛てご案内いただければ幸いで
す。簡易懸濁法研究会担当幹事 宮本悦子

北陸大学・簡易懸濁法研究会・石川県薬剤師会・石川県病院薬剤師会
「第4回簡易懸濁法実技セミナーin金沢 ～今日は1日懸濁三昧!～」

◆日時：平成30年3月11日（日）10:00～15:30

◆会場：北陸大学薬学部 実験科学棟

★金沢駅－北陸大学間のバス（無料）が利用できます。

発着場所：金沢駅西口大型バス駐車場

往路：金沢駅配車8:40、金沢駅出発9:00－北陸大学薬学部着9:45

復路：北陸大学薬学部発15:45－金沢駅着16:30（予定）

◆主催：北陸大学地域連携センター

◆共催：簡易懸濁法研究会

◆後援：石川県薬剤師会、石川県病院薬剤師会、特定非営利活動法人 健康環境教育の会

◆参加費（昼食代・お茶代含む）：簡易懸濁法研究会会員3,000円、非会員5,000円

（当日受付で支払いをお願いします。）

◆募集人員：薬剤師 先着48名

◆単位認定：石川県薬剤師研修センター研修2単位、石川県病院薬剤師会2単位（予定）

簡易懸濁法研究会実技セミナー2単位

<プログラム>

10:00～10:10 集合・挨拶

10:10～11:30 「簡易懸濁法講義 倉田なおみ先生（簡易懸濁法研究会代表 昭和大学薬学部教授）

11:30～12:30 昼食・懇談

12:30～13:30 簡易懸濁法実技①（基本的手技の確認、注入器による違い、剤形による違い）

13:30～15:30 簡易懸濁法実技②（実践：先発品・後発品の違い、配合変化、漢方薬）

◆申込期限：平成30年2月16日（金）※定員になり次第申し込みを締め切らせていただきます。

担当 北陸大学薬学部 興村 桂子

簡易懸濁法研究会 宮本 悦子（NPO HEART）

◆お申込方法 下記HPまたは右のQRコードより申し込んでください。

PC、スマートフォンおよび携帯電話から申込み可能です。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/db391e5c544248>

★受付期間：平成29年12月25日8:00～平成30年2月25日23:59

（定員になり次第締め切らせていただきます。）延長しました。

★上記の申し込み方法が利用できない場合はFAXでの申し込みを受け付けます。

◆お問い合わせ先 北陸大学薬学部 興村桂子（おきむら けいこ）

※お問い合わせはメール（またはFAX）をお願いいたします。折り返しこちらからご連絡を差し上げます。

E-mail: k-okimura@hokuriku-u.ac.jp

〒920-1181 石川県金沢市金川町ホ3番地 北陸大学薬学部

FAX 076-229-2781（代表）

以上

『第4回簡易懸濁法実技セミナーin金沢』申込み Web（またはFAX）をお願いします。

参加者氏名（ふりがな）：

e-mail アドレス：

連絡先住所：〒

連絡先電話番号：

簡易懸濁法研究会： 会員・非会員 勤務先： 病院・薬局・その他（ ）

バス利用の有無：往復 乗車します・乗車しません

第3回薬薬連携セミナーのご案内

謹啓

時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度、第3回薬薬連携セミナーを下記の通り開催する運びとなりました。ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い申し上げます。

謹白

日 時：平成30年3月18日（日）13：30－16：00

場 所：石川県立中央病院会議室1（大研修室）

金沢市鞍月東2丁目1番地

電話 076-237-8211

1 情報提供 13：30－13：55

石川県立中央病院の取り組みについて一循環器領域における臨床検査値の活用ー

小野 陽介 先生 薬剤主任専門員

2 講 演 14：00－15：50

大病院・中小病院・薬局・大学・企業・行政

我々は薬剤師として何をを目指すのか？ もう一度見直そう本質を！

ー 実務・臨床・教育・研究、薬学的管理、ポリファーマシー、地域連携 ー

新井 克明 先生 医療法人渡辺会 大洗海岸病院 薬剤部長

新井克明氏プロフィール

1981年：北里大学薬学部卒。筑波大学附属病院を経て現職

2014年：大洗塾開講、在宅医療参画に向けた薬局薬剤師のための1日からでも参加できる薬剤部研修の企画運営

2013年：医療薬学フォーラム 2013/第21回クリニカルファーマシーシンポジウム（金沢）優秀ポスター賞「DIC 診断・治療チームへの病棟薬剤師参加の評価」受賞

2017年：日本ベーリンガーインゲルハイム B I ファーマシストアワード 2017」グランプリ受賞「療養病床と老健施設の医師回診に薬剤師が同行したことで起こったイノベーション～薬剤適正使用を追い求めた10年間～」

薬剤部 HP: <http://www.watanabekai.net/ooaraikaigan/kaigan-toppage/kaigan-iryogijyutsubumon/> 薬剤部

共 催：石川県病院薬剤師会 石川県薬剤師会

後 援：特定非営利活動法人 健康環境教育の会

石川県病院薬剤師会生涯履習研修制度 1 単位申請中です

日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師認定制度 1.5 単位申請中です

石川県薬剤師研修センター認定シール 1 単位申請中です

申し込み方法：参加（無料）申し込みは FAX または Web によりお願いします。

アクセス



バス・電車 ご利用の方

- 金沢駅金沢港口バス停留所「6」番のりばから北鉄バス「中央病院」行きで約10分
※「県庁前」行き、「工業試験場」行きにも中央病院を経由する便があります。
- 金沢駅金沢港口バス停留所「6」番のりばから北鉄バス「県庁前」行きで約10分、県庁前から徒歩で約5分
- 北鉄電車「野町駅」から北鉄バス「県庁前」行きで45分（ほかに中央病院経由便もあります。）
- 能登方面（珠洲・輪島・門前・七尾など）からの特急バスは県庁前（中央病院口）に停車します。

タクシーご利用の方

- 金沢駅金沢港口タクシーのりばから約5分

マイカーご利用の方

- 金沢駅金沢港口から約5分
- 北陸自動車道「金沢西インター」または「金沢東インター」から国道8号経由で約10分

診療時間	●外来受付時間（正面受付）AM8:20～AM11:20 まで
	●休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始



石川県立中央病院

〒920-8530 石川県金沢市鞍月東2丁目1番地
TEL：076-237-8211(代) FAX：076-238-5366(管理局)
E-mail:soumuka@ipch.jp

FAX 申し込み用紙

076-265-4031

第3回薬薬連携セミナー（平成30年3月18日（日））を開催いたします。つきましては資料準備の都合上、FAX または Web(以下アドレス)にてお申し込みいただきますようお願いいたします。なお、不明な点は TEL&FAX 076-265-4031（NPO HEART 宮本）までご連絡ください。

ご所属

ご氏名

Web での申し込みは以下からお願いします。

なお、Web からの場合は1名ずつの登録となりますのでご了承ください（PC、スマートフォン、携帯 可）

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/e47fcf2c549911>



行って きました!!

読者レポート

◎場所 大洗海岸病院薬剤部(茨城県東茨城郡)

◎参加日 2014年10月31日, 2015年5月27日

◎読者レポーター 猪又泰子
かすが薬局(茨城県つくば市)

大洗塾に参加して なりたい薬剤師に なるために

私は今の調剤薬局で勤務をスタートし、1枚1枚処方箋に向かいながら1人1人の患者さんに教えていただきながら、経験を積みました。周りにいる病院薬剤師経験者の経験・知識に裏付けられた仕事ぶりを見るにつけ、また実習生たちの病院実習の話聞くにつけ、「私も病院を見てみたい」と焦るような気持ちでいたところ、他誌で大洗海岸病院の“大洗塾”の記事を見つけました。社会人でも、1日でも参加可能と何とも魅力的な内容で、高速を1時間も飛ばせば着く場所にあると知り、いても立ってもいられずに参加を決意しました。

大洗塾

在宅医療参画に向けた薬局薬剤師のために大洗海岸病院薬剤部が行っている研修。医師とのカンファレンスやカルテの見方、検査値・抗菌薬の感受性結果の解析、TDM、学会参加に向けた研究方法などを1日で学ぶ。参加希望の連絡をすると随時調整の上、開催される。

2014年10月31日(金)

猪又氏の参加スケジュール

8:10 集合
8:30 申し送りに同席
10:00 療養病棟回診開始(同行)
14:00 老健施設回診開始(同行)

2015年5月27日(火)

8:10 集合
8:30 注射処方箋鑑査、払い出し
10:00 一般病棟回診開始(同行)
14:00 療養病棟回診開始(同行)
(合間に一般病棟調剤業務)

回診同行前に患者さんの情報を収集

集合後、回診同行前の情報収集に取りかかりました。朝一番の看護師さんの申し送りに同席し、回診予定の患者さんの情報を得ました。体温、血圧などのバイタルをチェックし、咳や痰、排便状態といった看護師さんたちが気にしている項目を確認しました。カルテからの検査データを抜き書きし、回診でチェックすべきポイントを記録します。記録にはフォーカスチャータリングのDAR(data-action-response)で記載されている薬剤師専用のデータシートを用いました。このデータシートは、1カ月1ページで経時的に患者さんの様子を追うことができます。

療養病棟、老健施設、一般病棟の回診同行

情報収集を終え、回診の時間になりました。回診と言え

ば、TVで見たことのある偉い医師を先頭にぞろぞろと医師が連なる光景を思い浮かべてドキドキしましたが、実際には医師、看護師、管理栄養士、理学療法士、薬剤師と総勢5~6名で、その日の担当患者さんを回りました(写真1, 2)。それは、まさにチーム医療で、各職種ごとに気になる項目をチェックしながら、処方内容、治療方針決定に参加します。最終決定は医師に委ねられているとはいえ、その過程で薬剤師はじめ他のスタッフが意見を求められる場面が多いことに驚きました。食事が摂れなくなった患者さんには、医師からの要望に対し、栄養士がカロリーを提案し、薬剤師が輸液を提案、pHをチェック、その刺激性についての指摘をしました。その結果、スタッフに血管確保の際に注意が必要である旨が伝えられました。

他にも薬剤師の活躍する場面は多く、今ある体調変化が主疾患の延長なのか、副作用ではないのか、処方歴をチェックしながら医師から聞かれることもあります。クレアチニンクリアランスをその場で計算し、DPP-4阻害薬の種類を検討したり、プ



写真1—多職種での回診。まさにチーム医療



写真2—回診後、患者さんのデータを細かくチェックして、処方も決定する

ロマック[®]Dの処方の際に、Zn、Cu濃度測定を依頼したり、降圧薬の種類を変更した患者さんのK値を継続してチェックするように指示をしたりといったことも薬剤師からの提案でした。また、TDMや検査値など、必要性に応じてその場で積極的に検査依頼をしていました。

それぞれの施設での違い

大洗海岸病院には一般病床、療養病床、老健施設があります。回診同行して、急性期と慢性期では治療目的が異なっていることを知りました。検査オーダーのスピード感ひとつとっても違いがあります。

特に驚いたのは、慢性期の患者さんでは、病院食の効果か、生活習慣病の薬がどんどん減らせる、という点でした。安定しているから、と漫然と処方を継続するのではなく、検査結果の経時的な変化と患者さんの状態から、その都度処方を検討し、調整が繰り返されていることも知りました。

注射製剤の取り扱い

注射製剤については、注射箋の運用方法、その鑑査方法を学びました。薬剤師の手を離れてからの作業もあるため、全行程においてミスをなくすため工夫がされています。配合変化を起こす薬剤、ヘパリンロックの有無、フラッシュの有無などが記号化され、作業する人が注意すべき項目が一目で見てわかるように一覧表で管理されていました。

また、抗生剤の適正使用のための工夫がなされていて、漫然投与を避けるために、医師に使用届の提出が義務付けられています。さらに薬剤部からは、投与期間終了予定の数日前から、終了日を医師、看護師にアナウンスする仕組みができています。その他、既存のソフトを活用してTDM、サーベイランスなど積極的にデータ収集が行われています。これらのデータをもとに、薬剤や投与量を変更することもあります。より良い治療が行われるためにシステマティックに業務が行われていることがわかりました。

病棟業務

投薬ミスを少なく、アドヒアランスを維持するためにす



写真3—大洗海岸病院名物のお薬カレンダー

べての薬が一包化され、大洗海岸病院名物の『お薬カレンダー』に用法ごとにセットされていきます(写真3)。回診終了後、処方変更があった場面でもお薬の回収、再セットがスピーディーかつスムーズに行われていました。

病院の業務を想像しながら

大洗塾の回診同行を経験し、まさにチーム医療、医師をはじめ他のスタッフとの距離の近さを一番に感じました。処方の最終決定権は医師にあるとはいえ、そこにたどり着くまでのディスカッションにはヒエラルキーがなく、むしろ各職種のスタッフが、それぞれの立場から必要だと思われるデータ、情報を選択して準備しているために、より効率的な診察が行われていると感じました。薬剤師は、幅広い薬学的知識とそれをもとに処方提案できる応用力とを兼ね備えており、スタッフからの信頼を得てチーム医療に携わっていました。

研修を終え、薬局業務に戻った後は、「検査値はチェックされているだろうか」「血中濃度はモニタリングされているだろうか」と病院での検査や診察内容をこれまで以上に考えるようになりました。何より「この患者さんに本当にこの薬は必要なのだろうか、有効なのだろうか」と、患者さんとの会話の中からできるだけ多くのヒントを得られるように努めています。疑義照会も「残薬調整」や「規格変更」などのいわば計数調剤の答え合わせに終始するのではなく、患者さんの情報のフィードバックや、処方提案につながる情報を提供できるように積極的に活用できればと考えています。患者さんが適正に薬を用い、QOLの向上に貢献するという目標に向けて、薬局薬剤師が病院と患者さんをつなぐ架け橋になれるのではないかと考えて日々業務に励んでいます。

ご多忙のところ新井克明先生を始め大洗海岸病院薬剤部の先生方には大変お世話になりました。また、回診同行を快く受け入れてくださった病院スタッフの皆様方に心より感謝申し上げます。